

## 安全データシート

作成日： 2021/3/19  
改訂日： -

## 1. 製品及び会社情報

製品名 IR発光体6インチスティック  
 整理番号 F00114  
 会社名 株式会社ルミカ  
 住所 福岡県古賀市糸ヶ浦65  
 担当部門 技術部  
 電話（代表） 0120-00-3930  
 FAX番号（代表） 092-941-1552  
 緊急連絡先 同上

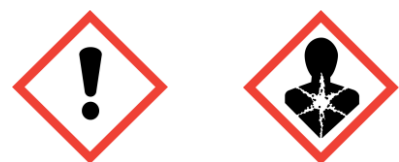
## 2. 危険有害性の要約

【GHS分類】※記載なきGHS分類区分：該当せず/分類対象外/区分外/分類できない

物理化学的危険性  
 引火性液体 : 区分に該当しない  
 酸化性液体 : 区分に該当しない  
 健康に対する有害性  
 皮膚腐食性/刺激性 : 区分3  
 眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A  
 発がん性 : 区分2  
 特定標的臓器毒性（反復ばく露） : 区分1（呼吸器）  
 環境に対する有害性  
 水生環境有害性 短期（魚） : 区分3

【GHSラベル要素】

絵表示又はシンボル :



注意喚起語 : 警告  
 危険有害性情報 : 軽度の皮膚刺激  
 強い眼刺激  
 発がんのおそれの疑い  
 長期にわたる又は反復ばく露による呼吸器の障害  
 水生生物に有害

注意書き

安全対策 : 使用前に取扱説明書を入手すること。  
 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。  
 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。  
 取扱後は手をよく洗うこと。  
 環境への放出を避けること。  
 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

応急措置

: 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。  
 ばく露またはばく露の懸念がある場合：医師の診断/手当を受けること。  
 気分が悪いときは、医師の診察/手当てを受けること。  
 皮膚刺激が生じた場合：医師の診断/手当てを受けること。  
 眼の刺激が続く場合：医師の診断/手当てを受けること。  
 保管 : 施錠して保管すること。  
 廃棄 : 法令に従い廃棄すること。

## 3. 組成、成分情報

単一製品・混合物の区別 : 混合物

成分及び含有量(wt%) :

成分名	含有量	CAS No.	官報公示整理番号		備考
			化審法	安衛法	
ポリオレフィン（ポリエチレン、ポリプロピレン、またはその混合物）	41~46	-	-	-	チューブ素材
クエン酸エステル	18~23	-	-	-	企業秘
ガラス	13~15	-	-	-	アンブル素材
フタル酸ジメチル	7~12	131-11-3	(3)-1301	-	-
安息香酸エステル	3~9	-	-	-	企業秘
グリコールエーテル	3~7	-	-	-	企業秘
シユウ酸エステル	2~8	-	-	-	企業秘
過酸化水素	<1	7722-84-1	(1)-419	-	-
蛍光物質	<0.1	-	-	-	企業秘
触媒	<0.1	-	-	-	企業秘

## 4. 応急措置（内容液に接触した場合）

吸入した場合 : 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。気分が悪い時は医師に連絡すること。  
 皮膚に付着した場合 : 直ちに、汚染された衣類をすべて脱ぐこと、取り除くこと。大量の水と石鹸で洗うこと。  
 皮膚刺激または発疹が生じた場合は、医師の診断、手当を受けること。  
 目に入った場合 : 水で15分間以上注意深く洗うこと。コンタクトレンズを容易にはずせる場合は外して洗うこと。  
 眼の刺激が続く場合は、医師の診断、手当を受けること。  
 飲み込んだ場合 : 気分が悪い時は、医師の診断、手当を受けること。口をすすぐこと。

## 5. 火災時の措置

消火剤 : 粉末、二酸化炭素、大量の泡が有効である。  
 特有の消火方法 : 消火作業は、風上から行い、周囲の状況に応じた適切な消火方法を用いる。  
 関係者以外は安全な場所に退去させる。  
 消火を行う者の保護 : 消火作業の際は、必ず保護具を着用する。

## 6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業の際には必ず保護具を着用し、漏出場所の風上から行う。  
 漏出場所の風下の人を退避させる。  
 環境に対する注意事項 : 濃厚な廃液が河川・下水等に排出されないように注意する。  
 回収、中和、封じ込め及び浄化方法と機材 : 火気厳禁とし、露出した液はウエス、土砂等で吸着させ空容器に回収し、その後を多量の水で洗い流す。

## 7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い（内容液について）  
 技術的対策 : 漏れ、あふれ、飛散しないようにし、みだりに蒸気を発生させない。  
 高温物、スパーク、火炎を避け、強酸化剤・強塩基性物質との接触を避ける。  
 注意事項 : 蒸気やエアゾールが発生する場合には、換気、局所排気を用いる。  
 安全取扱い注意事項 : 吸い込んだり、目、皮膚及び衣類に触れないように適切に取り扱う。



適用法令	項目
労働安全衛生法	名称等を通知すべき危険物及び有害物（法第57条の2、施行令第18条の2別表第9） （フタル酸ジメチル1%以上）（過酸化水素0.1%以上）
	名称等を表示すべき危険物及び有害物（法57条、施行令第18条） （フタル酸ジメチル1%以上）（過酸化水素1%以上）
消防法	第4類 第三石油類 危険等級Ⅲ

16. その他の情報  
参考文献

: GHS混合物分類判定システム (Ver6.0) 経済産業省  
化学物質総合情報提供システム (NITE-CHRIP) NITE(独立行政法人 製品評価技術基盤機構)  
職場のあんぜんサイト GHSモデルSDS情報 厚生労働省

中毒の緊急問合せ先

: 財団法人 日本中毒情報センター

	一般市民専用	医療機関専用
大阪中毒110番	072-727-2499	072-726-9923
つくば中毒110番	029-852-9999	029-851-9999

記載内容の取扱い:

本安全データシートは、現時点で入手できる資料、情報、データに基づき作成しておりますが、情報の正確さ、製品の安全性を保証するものではありません。また、本データシートは新たな情報を入手した場合には追加、または訂正されることがあります。